

第8号

出会う ふれあひ 語り合ひ
「幸せ」生まれる地域の絆

きずな

平成26年
7月17日発行

岡田小学校区
地区社会福祉協議会

岡田小学校区地区社会福祉協議会・ふれあひ便健康教室

認知症になっても安心して 自分らしく暮らし続けるために

～本人も家族も地域の人も、互いに楽に楽しむ日々を～

8月9日(土) 10時～12時

中央学習センター・多目的ホールで

認知症介護の現場に精通するスペシャリスト
永田久美子先生をお迎えして、特別講座



別途申込用紙を回覧します。ぜひご参加ください。

認知症という言葉が、大変身近になってきました。11年後の平成37年には、平均寿命が男性83.67歳、女性90.34歳へと延び、高齢化率(65歳以上比率)が約40%になるといわれています。65以上の高齢者1人を支える20歳～64歳の人数が平成2年には5.1人であったのが、平成12年には3.6人、平成37年には1.9人にまで減少してしまいます。

このように高齢化率が増加していくに伴い、高齢者認知症の数も増えていきます。平成24年8月の厚生労働省の推計によれば、日常生活自立度Ⅱ以上(日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意すれば自立できる状態)の人

の数は平成22年度280万人(65歳以上の人口に占める割合:9.5%)から平成37年には470万人(12.8%)に増加すると予測されています。認知症患者には若年性認知症の人もあります。

認知症は他人ごとではなく、家族の問題であり、自分自身の問題でもあります。

今回お招きして、ご講演いただく永田久美子先生は認知症介護の現場に精通した方です。具体的な事例に即したお話を聞くことができます。大変参考になると思います。

永田先生の略歴および今回のご講演の要旨を次ページに掲載しました。大勢の方の来場をお待ちしています。

講演テーマおよび要旨

テーマ： 認知症になっても安心して自分らしく暮らし続けるために
～本人も家族も地域の人も、互いに楽に楽しい日々を～

講演要旨

認知症についての医療・介護・地域での支え方が進み、認知症になっても安心して自分らしく暮らし続けることが可能な時代になってきました。そのためには認知症に関する理解と支援、そして「つながり」が不可欠です。

自分として、家族として、そして地域として何ができるのか。全国各地の具体的な取組みの情報を交えながら、これからの日々をもっと楽に楽しく暮らしていくためのヒントをお伝えします。

永田久美子先生略歴

<現職>

認知症介護研究・研修東京センター 研究部長

1960年新潟県三条市生まれ。

千葉大学大学院看護学研究科修了。

学生時代から地域や病院、施設で認知症の人と家族を支援する活動と研究を続けてきている。

東京都老人総合研究所を経て、2000年8月から東京センター勤務。

認知症の人と家族、地域の人とともに安心して自分らしく暮らしていくことをテーマに、認知症の人の生きがい支援、地域に根ざした認知症ケアと人材・チーム育成、市町村ごとの特徴を活かした支えあいの町づくりなどに取り組んでいる。

<主な著書>

○認知症の人の見守り・SOS ネットワーク事例集、安心・安全に暮らせるまちを目指して、中央法規、2011

○NHK テキスト「社会福祉セミナー」、認知症の人の生活支援 2013年

○扉を開ける人、クリスティーナ・ブライデン、本人が語るということ、クリエイツかもがわ、2012

○「認知症ケアをもっと楽に」、本人と家族のためのセンター方式ガイド 中央法規出版、2008

○認知症の人の地域包括ケア 多職種で取り組むステージ・アプローチ」日本看護協会出版会、2006 他

○三訂「認知症の人のためのケアマネジメント センター方式の使い方・活かし方」中央法規出版、2011

